

# 算数

令和元年度 第3回定例研究会報告・・・・・・・・・・1

今月の指導案

3年「べつべつに いっしょに」・・・・・・・・6

令和元年 12 第68巻 第12号

香川県小学校教育研究会算数部会  
香川県算数教育研究会

## 令和元年度 第3回定例研究会報告

10月26日(土)、附属坂出小学校にて、第3回定例研究会が行われた。今回はその概要について報告する。

〈日程〉
1 開会
2 附属坂出小学校の提案 第3学年 「広がる三角形のせかい」 提案者 香川大学教育学部附属坂出小学校
3 授業討議
4 閉会

## 第3学年 算数科学習指導案

1 単元名 広がる三角形のせかい

### 2 単元について

本単元は、学習指導要領第3学年B(1)「二等辺三角形、正三角形などの図形」の内容について、以下のような資質・能力の育成をねらい設定されている。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
二等辺三角形、正三角形などについて知り、作図などを通してそれらの関係に次第に着目することができるとともに、基本的な図形と関連して角について知る。	図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を考えるとともに、図形の性質を見だし、身の回りのものの形を図形として捉えることができる。	図形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用しようとする。

子どもたちは、第2学年では四角形や三角形、正方形や長方形などについて、これらを構成する直線や直角などに着目することで、図形を弁別することを学習してきた。第3学年では、図形を構成する要素として辺の長さの相等や角の大きさの相等に着目して、三角形の構成の仕方を考え、二等辺三角形や正三角形について理解していく。また、新たな図形の構成要素として角について知り、その観点で図形の構成を捉え、性質を見だししていく。本単元では、図形構成教具等を使って三角形を構成したり、定規やコンパスを用いて作図したり、折り紙を折って三角形をつくったり等の数学的活動を通して、第2学年より培われてきた図形を構成する要素に着目して図形を捉えようとする数学的な見方・考

え方を働かせながら、二等辺三角形や正三角形の意味や性質を見いだしていくことができる。これらの経験を通して、新たな構成要素を学ぶたびに、図形の認識が広がっていることを実感するとともに、身の回りのものの形を図形として捉えようとする態度を育てることができる。また、図形の構成や問題の解決に当たる際には、それらを定める約束や性質を明確にし、それを用いて処理しようとする態度を養うことにつながるだろう。そして、ここで育成された資質・能力は、第4学年での平行四辺形、ひし形、台形などの考察に生かされていく。

### 3 主張点

上記の実態を踏まえ、本単元の導入では、準備の時間として第2学年の学習を振り返り、図形の構成要素に着目することでその認識が広がってきたことを想起し、構成要素に着目して図形を捉えることの大切さやこれまでの図形学習の系統性等を確認する。また、円の学習について、その性質やコンパスの働きについても振り返り、本単元の学習で用いるレディネスを確保したい。そして、本時について上記の子どもの実態を基に、以下の3点で手立てを講じる。

#### ① 導入の工夫として

第1時の準備の時間において、これまでの図形学習の経験を振り返るとともに、本単元のおおまかな学習計画を作成し補助黒板に示しておく。前時に学習したことを振り返りながら、本時に学びたいことを話し合う場を設定し、学習の流れを視覚的に捉えられるよう板書等を工夫することで、課題設定の妥当性を感じられるようにする。また、本時は、コンパスを使って二等辺三角形を作図する方法について、その手順を確認した後、全員が納得できたかを問い、疑問を話し合うことで、「なぜ、コンパスを使えば二等辺三角形をかくことができるのか」という課題を見いだせるようにする。

#### ② 交流の工夫として

子どもたちにとって、コンパスを使って二等辺三角形をかくことができる理由を言語化することは難しい。そのため、「図形構成教具との共通点」という視点を設け、実際に図形構成教具を操作しながら考察していく。操作を通して、気付いたことをペアで確認する等、操作しながら説明を繰り返すことで、コンパスで等しい二辺の長さを写し取り、回転させながら二等辺三角形になる頂点を探していることに気付いていく。例えば、「パッチン棒をくるくる回して、三角形になるところを探すのと同じだ」とコンパスと図形構成教具との共通点を見付けた後、「コンパスはパッチン棒のどの部分と同じなんだろう」、「パッチン棒の上にコンパスを重ねることができるよ」、「コンパスで等しい辺の長さを写し取っているんだね」と、コンパスと図形構成教具とをつないで捉え、コンパスのデバイダーとしての働きをまとめられるようにする。また、「なぜ、くるくる回しているの」と問いかけることで、「三角形ができる頂点を探している」という操作の意味を理解し、上下に2つの二等辺三角形がかけることにも気付けるようにする。そして、考察したことを整理して板書しておくことで、それらの情報を組み合わせ、コンパスで作図できる理由を言語化できるようにする。

#### ③ 新たな問題につなぐ工夫として

コンパスを使った二等辺三角形の作図の仕組みを理解した後、正三角形の作図について、二等辺三角形の作図の仕方を生かし、解決していく場を設ける。正三角形の作図ができる経験は、実態調査における「分からない」と感じている子どもにとって、本時の課題を解決できたという実感につながると考えるため、机間指導による助言等を工夫し、自力解決できるよう支援する。また、正三角形の作図を終えた後、円を使う等、別の三角形のかき方を意識させることで、次に学習することが明確になり、次時への見通しにつながるだろう。そして、「できたこと・分かったこと」、「その理由」、「もっと考えたいこと」の3観点を示し、振り返りを書く時間を設けることで、学びの過程を振り返りながら、大切だと思うことを整理し、次に学習したいことを自分の言葉でまとめる機会とする。

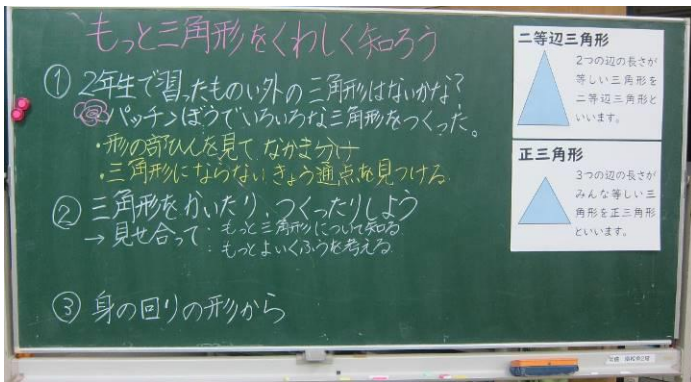
### 4 単元構成（本時4/10）

次	時	学 習 活 動
1	1	これまでの図形学習を振り返って系統性を確認し、本単元のおおまかな学習計画をつくる。
	2	図形構成教具を用いて、様々な三角形をつくり、三角形ができない場合について話し合う。
	3	7種類の三角形の弁別の仕方を考え、よりよい仲間分けの仕方について話し合う。また、仲間分けした三角形に名前をつける。
	4	コンパスを用いて底辺の定められた二等辺三角形がかける理由を考え、図形構成教具とつないで説明し合う。また、二等辺三角形のかき方を生かして、正三角形を作図する。
	5	円を用いてできる三角形がどれも二等辺三角形になる理由について考え、説明し合う。また、円を

		使って正三角形を作図し、二等辺三角形と正三角形の関係について考察する。
6		色紙で二等辺三角形や正三角形をつくり、二等辺三角形や正三角形になる理由を考え、操作を通して説明する。また、身の回りから二等辺三角形や正三角形の形をしたものを見付ける。
2	7	新たな図形の構成要素として角について知り、その大小の比べ方を考えることを通して、角の意味を理解する。
	8	角の大きさに着目して、二等辺三角形や正三角形を調べ、操作を通して、二等辺三角形や正三角形の角の大きさについての性質を見付ける。
	9	同じ大きさの正三角形や二等辺三角形を敷き詰めて模様をつくり、つくった模様からいろいろな形を見付けることを通して、図形の構成要素についての理解を深める。
	10	練習問題を通して、単元の学習の理解を確認する。

5 板書計画

【主張点①：単元のおおまかな学習計画】



【主張点①：これまでの図形学習の系統性】



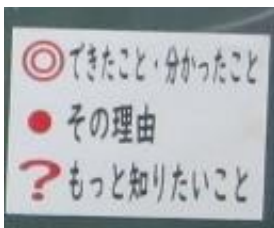
【主張点②：本時考察したことを整理し言語化につなぐための板書】



【主張点②：図形構成教具パッチン棒】



【主張点③：次に学習したいことを自分の言葉でまとめるための振り返りの観点】


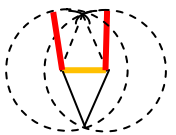


## 6 本時の学習指導

### (1) 目標

コンパスを使って二等辺三角形がかける理由について、コンパスの働きや図形構成教具の操作とつないで考え話し合うことを通して、コンパスは一定の長さを測り取る道具であり、その特性を生かして二等辺三角形の頂点を見つけていることに気づき、それを生かして二等辺三角形や正三角形を作図できる。

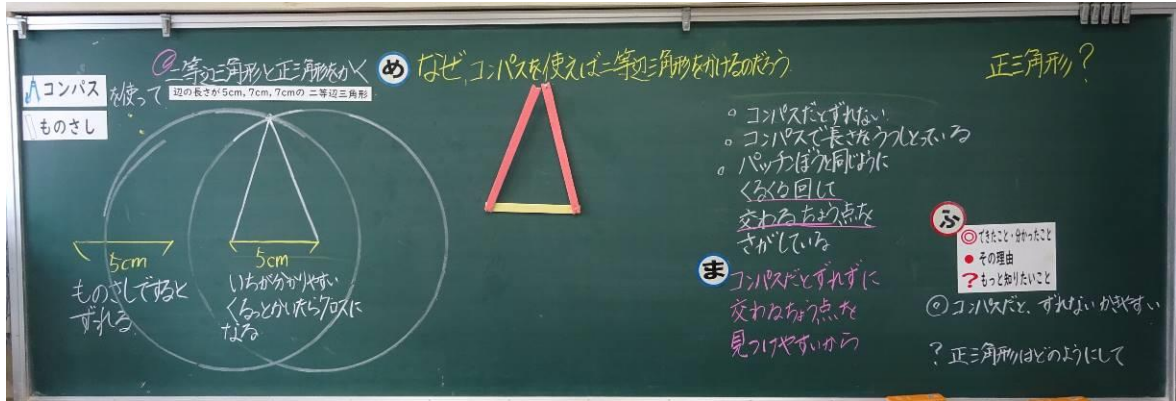
### (2) 学習指導過程

学習指導過程	子どもの意識	教師の働きかけ
<p>1 前時の学習を振り返り、学習計画をもとに本時の活動を確かめる。</p> <p>2 底辺の長さが定められた場合の二等辺三角形について、コンパスを使ってかく方法を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前の時間は、三角形の仲間分けをして、2つの辺の長さが等しい三角形を二等辺三角形ということが分かったよ。</li> <li>3つの辺の長さがすべて等しい三角形は、正三角形といったよ。</li> <li>新しい三角形の名前を付けられたから、今日は、二等辺三角形や正三角形のかき方を考えるよ。</li> <li>下の辺の長さが決まっている二等辺三角形をかくんだね。パッチン棒でつくってみよう。どんな形か分かったぞ。</li> <li>何を使えばかけそうかな。</li> <li>コンパスを使ったらかけるよ。</li> <li>他にもものさしを使うよ。</li> <li>コンパスを使って、二等辺三角形をかいてみよう。</li> </ul>  <p>コンパスで7cmをとって、下の辺の端から、このように印をかくよ。こちらからも同じようにすると、二等辺三角形がかけられるよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ノートにかいて確かめてみよう。</li> <li>なぜ、コンパスだと二等辺三角形をかくことができるのだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の終末に話し合ったことを振り返り、補助黒板を用いて学習の流れを整理する。この際、二等辺三角形と正三角形の定義を意識できるよう掲示することで、本時の課題解決に生かせるようにする。</li> <li>問題を確認した後、図形構成教具で二等辺三角形をつくることで、作図の具体的なイメージを捉えられるようにする。</li> <li>何が使えそうか話し合い、作図の道具としてコンパスが使えそうなことを確認した後、コンパスに限定して二等辺三角形をかくことを共通理解する。</li> <li>かき方を発表する際には、発言に応じて教師が教具を操作することで、視覚的に手順を理解できるようにする。</li> <li>コンパスを用いた作図の仕方を確認した後、全体の納得を問いかね、疑問等を話し合うことで、「なぜコンパスを使えば二等辺三角形をかくことができるのか」という課題意識を導く。</li> </ul>
<p>なぜ、コンパスを使えば二等辺三角形をかくことができるのだろう</p>		
<p>3 コンパスで二等辺三角形を作図できる理由について考える。</p> <p>(1) 直感的な意見を交流する。</p> <p>(2) 図形構成教具とつないで、コンパスの操作の意味を考える。</p> <p>(3) コンパスで二等辺三角形を作図できる理由をまとめる。</p> <p>4 二等辺三角形のかき方を生かして正三角形をかく。</p> <p>5 本時を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>二等辺三角形は、2本の辺の長さが等しい三角形だから。</li> <li>コンパスで円をかくと半径は同じ長さだから。</li> <li>コンパスで等しい辺の長さを写し取っているから。</li> <li>何となくは分かるけれど、イメージできないな。</li> <li>言葉だけではうまく伝わらないな。どうしよう。</li> </ul> <p>・パッチン棒を使って、コンパスと同じところを考えてみよう。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>くるくる回して、三角形になる点を探しているのが同じだよ。</li> <li>パッチン棒にコンパスを重ねるとよく分かるよ。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>コンパスを使って等しい辺を写し取り、パッチン棒と同じようにくるくる回して重なる頂点を探しているからだ。</li> <li>コンパスで正三角形もかけそうだな。</li> <li>正三角形は、すべての辺の長さが等しい三角形だから、等しい辺をかくために、5cmの辺を写し取るよ。そして、くるくる回して重なる頂点を見付けると、正三角形がかけられるよ。</li> <li>二等辺三角形も正三角形もかき方が同じだよ。同じ長さの辺の数が違うだけだよ。</li> <li>コンパスを使って二等辺三角形や正三角形がかけられるのは、等しい辺の長さを写し取って頂点を探しているからだよ。</li> <li>次は、円を使って三角形がかける理由について考えたいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの発言をつなぎながら、「図形構成教具との共通点」を意識させ、教具を操作しながら、視覚的、感覚的にコンパスの操作の意味を捉え、二等辺三角形を作図できる理由をまとめられるようにする。</li> <li>実態に応じて、ペアで相談したり、教具を操作しながら説明し合ったりする場を随時設定する。</li> <li>コンパスでかいた円の軌跡と図形構成教具の動きをつないだり、図形構成教具にコンパスを重ねて動かす操作を体験したりすることで、視覚的にコンパスの操作の意味を捉えられるようにする。</li> <li>発表された意見を整理して板書しておくことで、コンパスで二等辺三角形を作図できる理由を言語化するための支援とする。</li> <li>二等辺三角形の作図の仕組みをもとに、正三角形のかき方をペアで説明し合うことで、個々の理解を促す。</li> <li>二等辺三角形の作図と同じところと違うところを話し合うことで、2つの図形の関係性に気付けるようにする。</li> <li>本時のかき方以外のかき方があることを示唆し、次時の見通しとする。</li> <li>本時分かったことやできるようになったこと、その理由、もっと考えたいことの3観点を示し、振り返りを書く時間を設ける。</li> </ul>

### (3) 評価(発言・ノート)

コンパスで二等辺三角形がかける理由を理解し、コンパスで正三角形を作図している。

8 板書・授業記録



9 授業討議

参観者より

①導入の工夫について

- ・ 最初にコンパスを使った二等辺三角形のかき方を示し、「なぜ」という疑問から問いを考えていたのがよかった。
- ・ めあての必要感を高めると、子どもの主体的な問題解決を促すことができたのではないかと。例えば、コンパスを使って二等辺三角形を作図した後、手順の中で疑問に思うことを取り上げることで、「なぜそのような操作をするのだろう」という意識が生まれたのではないかと。別案として、ものさしでは、ずれて正確にかけないことから、「なぜ、コンパスだと正確にかけられるのか」という展開も考えられる。

②交流の工夫について

- ・ 途中で、自分の言いたいことが分からなくなってしまった子もいた。子どもに委ね、発問を精選することで、ねらいに迫れたのではないかと。例えば、学習活動3(2)では、「パッチン棒の何とっしょ」ではなく、「パッチン棒とコンパスのどんなところが似ていますか」と問うことで、共通点を整理することができた。
- ・ 子どもと教師の一问一答になってしまった場面があった。「Aさんは、こう言っているけれど、Bさんはどう考えますか」「Cさんの言っていることを繰り返してください」「Dさんに聞きたいことはありませんか」等、子ども同士をつなぐ発問が大切である。
- ・ パッチン棒とコンパスをつないで説明させる活動を取り入れることで、底辺の両端の頂点を中心とした円をかいていることに気付けたと思う。また、子どもの「クロス」を図とつないで示し、「なぜ、ここしかかかないのか」の理由を考えることで、目印を付けていることから頂点を探しているという意識を導けたのではないかと。
- ・ パッチン棒を操作して考える際に、何をどうしたらよいか分からない子がいたので、作図とつないで底辺を固定して操作させたり、何を操作させるのか具体的に示したりすることが支援になると感じた。
- ・ 見方を言語化するために、操作と発言をつないで視覚化することが大切である。定規を操作した後の「定規を使ってかくとずれてうまくいかない」という発言について、「〇〇さんは、どこを見ているの」と問い、広げることで、図形の構成要素に着目して、算数の言葉で語れる支援となったのではないかと。

③新たな問題につなぐ工夫について

- ・ 次に生かせる振り返りにするために、観点を設けていたのはよかった

## 第3学年 算数科学習指導案

丸亀

1 単元名 べつべつに いっしょに

2 単元について

(1) 本単元は、学習指導要領A(3)ウ「乗法に関して成り立つ性質を調べ、数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。」に該当する。乗法の順思考と加減の順思考が組み合わさった問題で4要素3段階と3要素2段階の2通りの考え方を基盤にしながら分配法則の前段階となる「まとまりを考えて」解く思考法に慣れさせることをねらいとしている。本単元では、 $a \times c \pm b \times c$ の問題を  $(a \pm b) \times c$  としてまとまりを考える学習を行う。そこで、式と図を関連づけながら説明したり、「べつべつに考える」方法と「まとまりを考える」方法の2通りの考え方を比較したりすることを通して、まとめる数値に着目して「まとまりを考える」よさを実感できるようにすることが重要であるとする。

(2) 本単元で育成したい「まとまりを考えて」解くよさに気づく力に関わる実態は以下の通りである。

(3)

実態調査 11月9日実施 90円のチョコレート6個と70円のジュース6個を買ったときの代金を求める。 ・チョコレートとジュースの値段を別々に解く。 21名 (そのうち4名は計算ミス) ・チョコレート1個とジュース1個をまとめて解く。 0名 ・誤答 10名
---

加法と乗法を組み合わせた問題を、学習経験からそれぞれを単価×個数で答えを出し、たす方法で解くことはできているが、まとまりを考えて解くという考えに気付いている児童はいない。また、具体的なイメージをしながら文意を読み取ったり、図や絵に表したりすることが苦手で、問題を理解して立式することが困難な児童もいる。

(3) 本単元では、まず加法と乗法を組み合わせた問題をいろいろ考えさせることによって「べつべつに考える」方法と「まとまりを考える」方法の2つの考え方があることに気付かせる。その時にその相違が分かるように問題場面を簡略化した図に表すことが「まとまりを考える」方法に気付く要因であるため、式と図や言葉をつないで説明する活動を大切にしていきたい。本時では、加法と乗法を組み合わせた問題を、「まとまりを考えて」解くことを学習する。前時に、2つの方法を学習しているため、どちらの方法が早く簡単に求められるのかを考えることで、まとまりを考えることの良さに迫れるようにしたい。そこで、早く簡単に求められる方法を選んで解き、その理由を全体で交流し合う中で、まとまりを考えて解く方法の方が、式の数少なく、計算も簡単であることに気付かせたい。しかし、べつべつに考える方法が早く簡単だと考える児童も予想されるため、「数値を大きくしても、べつべつに考える方法が早く簡単に計算できるのだろうか。」と問いかける。そして、再度計算をすることを通して、数値が大きくなると計算も筆算が必要になり、早く簡単に求められないことに気づき、まとまりを考えて解くことの良さを実感できるようにしていきたい。

3 単元の目標

- ・「まとまりを考えて解く」思考法のよさがわかり、進んで活用しようとする。
- ・加減と乗法を組み合わせた4要素の問題を、共通の要素に着目してまとめて考えることができる。
- ・加減と乗法の組み合わせた4要素の問題を、まとまりを考えて解くことができる。
- ・加減と乗法に関して成り立つ性質のもとになる計算の仕方を理解している。

4 学習指導計画 (全3時間)

- 第1次 加法と乗法を組み合わせた問題で2通りの考え方で解くことができる。 ……1時間
- 第2次 加法と乗法を組み合わせた問題でまとまりを考えて解くことができる。 ……1時間 (本時2/3)
- 第3次 減法と乗法を組み合わせた問題でまとまりを考えて解くことができる。 ……1時間

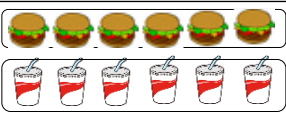

5 本時の学習指導

(1) 目標

「べつべつに考える」方法と「まとめて考える」方法のどちらが早く簡単に求められるのかを考える活動を通して、まとまりを考えると計算がしやすくなるという良さに気づき、加法と乗法を組み合わせた問題を「まとまりを考え

て」解くことができる。

(2) 学習指導過程

学習活動	期待される児童の反応	教師の支援活動
1 本時の学習課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>前の時間は、べつべつに考える方法とまとめて考える方法の2通りで考えたよ。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">早くかんたんにできる方法はどっちだろう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時に学習した「べつべつに」「まとめて」の方法を掲示しておく。</li> <li>2つの方法のどちらが早く簡単にできるかを意識させる。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     どちらの方法が早くかんたんにもとめられるか考えよう。                 </div>		
2 早く簡単に求められる方法で代金を求める。 (1)個人で  (2)全体で	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハンバーガーとジュースをべつべつに考える方が簡単にできるよ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">  <span style="float: right;">ハンバーガー6こ分 ジュース6こ分</span> <math display="block">200 \times 6 = 1200 \quad 100 \times 6 = 600</math> <math display="block">1200 + 600 = 1800 \quad 1800 \text{ 円}</math> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>ハンバーガーとジュースをセットにして考えた方が早いはずだよ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">  <span style="float: right;">ハンバーガーとジュースを セット <math>200 + 100 = 300</math></span> <math display="block">300 \times 6 = 1800 \quad 1800 \text{ 円}</math> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>式だけでなく、説明ができる図も書けるようにワークシートを用意しておく。</li> <li>自分が早く簡単にできる方法を選んで解くことで、その方法で解いた理由も同時に考えさせる。どちらかで悩んでいる児童には、2つの方法で考えさせ、比較するよう助言する。</li> <li>どちらの方法が、早く簡単に計算できるのか、その理由も考えさせる。</li> <li>全体では、なぜその方法が早く簡単に求められると思ったのか、それぞれ自分の考えを発表させ、意見を交流させる。</li> </ul>
3 値段が変わった場合でも早く簡単に求められるか考える。 (1)個人で  (2)グループで  (3)全体で	<ul style="list-style-type: none"> <li>べつべつに考える方法が、順番に考えていくし、100や200の計算だから簡単だよ。</li> <li>まとめたの考えのほうが、式も少ないし九九で簡単に計算できるよ。</li> <li>ハンバーガー270円、ジュース130円になったよ。</li> <li>先の問題は、まとめたの方法が早く簡単にできたけどこの問題はどうかだろう。</li> <li>この問題も、値段は変わってもハンバーガーとジュースを6こずつ買うことは変わらないからまとめて考えると、<math>270 + 130 = 400</math>、<math>400 \times 6 = 2400</math>になって式も2つで計算も簡単だったよ。</li> <li>べつべつに考える方法ですと、<math>270 \times 6</math>や<math>130 \times 6</math>の計算は数が大きくなって筆算しないと計算ができないし、早くできなかつたよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑧ ハンバーガーとジュースの値段が変わってもべつべつに方法が早く簡単にできるのかな。</li> <li>単価の数値を変えたときでも、どちらの方法が、早く簡単に求められるのか確認させる。</li> <li>数を大きくした場合、計算が複雑になり早く簡単にできないことに気づかせる。</li> <li>グループ活動では、実際に計算してみるとどんなことに気付いたのか話し合わせる。</li> <li>まとまりを見つけて考えると、計算が早く簡単にできることをまとめる。</li> <li>まとめて考えることの良さを実感できるように練習問題をやる。</li> </ul>
4 まとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>数が大きくなっても早く簡単に求めることができたのは、まとめたの方法でした。</li> <li>やっぱり同じ数どうしときは、まとめたの方法が早く簡単にできるんだね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑨ まとめて考える良さが分かり、まとまりを考えて問題を解くことができる。</li> </ul>
5 練習問題をやる。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     まとめて考えると、早く簡単に計算できることが分かったよ。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>この問題は、両方とも4回で運ぶから、まとめたの方法が使いそうだ。</li> </ul>	

<指導案を読んで>

本単元では、乗法の順思考と加減の順思考を組み合わせた問題を、4要素3段階と3要素2段階の2通りの考え方を基盤としながら、「まとまりを考えて」解く思考法のよさに着目させ、漸次その思考法に慣れさせることをねらっている。

本時は、前時の学習で使った2通りの方法を、「さらに早く簡単に求められる方法は？」という新たな条件を付け加え、式と図や言葉をつないで説明し比較する学習活動を組んでいる。児童によっては、「べつべつに考える」ほうが計算しやすいと考えることから、数値を変えて計算が煩雑になる場合を取り上げ、「いつでも」「どこでも」「誰でも」が簡単に早く計算できる方法として、「まとまりを考える」方法がより良い方法であると、全体交流の場で練り上げていこうとしている。

算数科において、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養うことが大事である。本授業は、この観点を視野に入れた効果的な授業展開が行われている。